

第一学期終業式式辞

令和4年7月20日

※ 新しい学年、新しい学期初め・・・始めたら始まり・・・何か始まりましたか。

あつという間に梅雨が終わり、暑い夏が6月からやってきました。夏休みに入る前に夏の暑さに慣れてしまい、暑さに新鮮な気持ちではない7月です。熱中症対策をしながら、コロナ感染予防をする三度目の夏です。一年前は、陽性確認について、一日当たり東京が1,000で、愛媛県が100という深刻さを訴えていましたが、今年はその10倍です。皆さんの対策のおかげで、多くの活動を行い、学校を止めることなく今年度ここまで至っていますので、夏休み中も感染回避行動の徹底をお願いします。

さて、一学期を振り返ってみて、何か始めることができましたか。始業式に始めたら始まりという話をしましたが、今心の中で、自分はこれが始まったというものを思い浮かべてください。県総体には総勢88名が出場し、四国大会へは陸上競技部、弓道部、水泳競技から3名が出場しました。ものづくりコンテスト木材加工部門も県大会、四国大会と1,2位を独占し、二つの全国大会出場が決まっています。いろいろな資格試験にチャレンジし合格したり、久しぶりの演奏会などを経験したりということもあったでしょう。もちろん中間考査、期末考査での成績向上、就職や進学に向けての毎日の努力もあると思います。新型コロナウイルス感染症が蔓延して、日常を普通に過ごすことができず、普通に過ごせることのありがたさを実感し、目標を持って高校生活を送ることがいかに素晴らしいことかということに改めて感じています。そのことに関連して・・・

※ 大貴君の夏 君たちは今なんでもできる・・・すばらしいこと

今日は、私の甥っ子萩田大貴君の話をしてします。大貴くんは、野球が大好きな少年で、二年前静岡県立静岡東高校に入学し、野球部に入部しました。私の妻の妹の子供で高校3年生です。生きていれば。この夏は本校野球部も大活躍で59年ぶりのベスト8まで勝ち進み試合ごとに成長する姿を見せてもらい、わくわくさせてくれました。本校の一回戦が行われた次の日、静岡東高校野球部も吉原工業との一回戦に臨みました。選手は、ベンチに大貴君の遺影を置き、大貴君とともに戦った姿が、地元テレビ局のニュースで、「ともに白球を追いかけた三年生が大貴君とともに戦う最後の夏」として紹介されました。今も野球部父母会の一員として野球部の活動を支えるお父さんのインタビューもありました。シーソーゲームを制して6-4と逆転勝ちを収め、お父さんは「みんなの中にいるんですかね。みんなと一緒にやっているんですかね。」と涙ながらに答えていました。

思い返せば、二年前、入学したもののすぐにコロナの影響で臨時休業となり、6月になってやっと学校生活が戻りつつあった頃、大貴君は体の不調を訴え入院をしました。入学してやっと普通に練習が始まった頃の出来事です。肺と肺の間の神経に絡みつくようにがんが見つかりました。前縦隔胚細胞腫瘍というがんで、症例としては、世界的に珍しく、治療も難しいがんでした。今細胞は京都大学で研究のため保管されているくらい難しい症例でした。どんなにつらくて苦しい治療も弱音を吐かずに堪えましたが、大貴君は高校一年生の夏を病院のベッドで過ごし、9月にこの世を去りました。自宅に一週間ほど戻ると聞き、今大ちゃんに会わなければ絶対後悔すると静岡へ向かいました。途中名古屋の大学に通っていた私の長女と落ち合い、萩田家へ向かいました。ちょうど病院から帰宅したばかりで、きれいな顔にしてもらい、髪も整え安らかに横たわっていました。私と娘は大泣きでした。大ちゃんの母親から、うちの娘に「いっしょに成長できなくてごめんね。」という言葉。夏休みや冬休みの度にバーベキューをしたり、USJに行ったり、高知城に行ったり、たくさんの思い出が頭をよぎりました。

今回、静岡で放送された大貴君のニュースについて、大貴君のお母さんに、この話を終業式で話してもよいかと尋ねると、ぜひという返事に加えて「大貴の高校生になった時にどんな高校生活を送りたいですか?」の質問に友達と毎日楽しい高校生活を送りたいって書いてあった。七夕の願いは野球がしたいだった。みんなはやろうと思えばできるということを伝えて下さい。」とおっしゃっていました。

皆さんはこれから夏休みを迎えます。三年生は将来に向けて真剣に考える時期です。一、二年生は課題や部活動に思う存分励むことができます。笑ったり、悩んだり、怒ったり、喜んだり。たとえコロナが流行ろうとも、たいへんなことに直面しようとも、やろうと思ったことが何でもできるという幸せが皆さんにはあるのですよ。今を思いっきり生きよう、楽しもうという当たり前のことをお願いして、終業式の式辞とします。